

助教

山田 恵

■ 学歴

1. 2022年 北九州市立大学大学院 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学
3. 思春期学

■ 研究キーワード

1. アタッチメント
2. 寄り添う支援
3. 女性の健康

■ 研究課題

1. アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。
2. 思春期世代に対して、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

■ 担当授業科目

1. 人間関係とコミュニケーション（前期） 選択
2. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 必修
3. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期） 必修
4. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期） 必修
5. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期） 必修
6. 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年） 必修
7. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） 必修
8. 母子の心理・社会学（前期） 必修
9. ウイメンズヘルスケア（前期） 必修
10. 助産学基礎実習（前期） 必修
11. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年） 必修
12. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期） 必修
13. 母性看護学演習（前期） 必修

14. 母性看護学実習（後期）必修

授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【人間関係とコミュニケーション】 助産ケアを行う上で土台となる対人関係構築に関する技法について、共同学習の技法を取り入れ展開した。
2.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）、Ⅱ（分娩期）、Ⅲ（産褥期）、Ⅳ（新生児期）、Ⅶ（助産過程）】 Ⅰ～Ⅳの科目間での学習過程をふまえ、助産過程の展開では知識を活用したアセスメント・診断の技法などを解説した。グループ活動であったが、学習状況により適宜個別対応をした。 演習科目においては、映像教材の活用とデモンストレーションを組み合わせ、細かい手技まで確認できるようにした。事例作成において、現在の臨床事例を土台に、対象事例の背景や経過を緻密に提示し、対象の全体をとらえていけるよう工夫した。
3.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）】 思春期健康教育実施については準備期間が短期間であることを考慮し、事前アンケートを作成し、学生が企画運営に活かせるよう情報提供した。その後は、学生が主体となり運営できるよう統括チームのサポート役となり、チームで協働して1つのものを完成させる体験となるよう調整した。
4.	授業科目名【母子の心理社会学】 社会学的視点での知識を助産ケアにどのように活かしていくのか、最新の動向や課題について具体的に事例を用いて解説した。
5.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 学習範囲が広範囲であるため、関連授業とつなげる形で授業資料を作成した。
6.	授業科目名【助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ】 今年度より臨地にて10例到達が必須であったため、可能な限り分娩介助をさせていただけるよう、管理者や指導者と調整を行った。県外実習において、トラブル発生時は速やかに対応し、実習継続できるように調整した。
7.	授業科目名【母性看護学演習】 提出物内に個々に応じたコメントを記し、授業内外で質問を受け付け対応していく時間を設けた。
8.	授業科目名【母性看護学実習】 2つの留年グループや補習実習を担当する中で、学生の健康状態や心理状態をふまえ個々の目標設定を行い指導した。臨床指導者と密に連携し、可能な限り見学や実践の機会がもてるよう調整した。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991年4月～現在	日本助産学会	会員
2.	1991年4月～現在	日本母性衛生学会	会員
3.	2002年11月～現在	日本不妊カウンセリング学会	会員
4.	2005年1月～現在	日本思春期学会	会員

5.	2023年8月～現在	日本学校保健学会	会員
6.	2014年4月～現在	全国助産師教育協議会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025.3	健康管理ツ ールとして の「健康管理 カルテ」を用 いた大学生 への健康支 援 －利用状況 と運用に関 する考察－	共	西南女学院大学 紀要 Vol.29	①大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成し入学生に配布し、その利用調査を行った。その利用状況から、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段となっていた。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田恵，高崎智子，目野郁子 ③ p 47～56
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024年7月3日	チャイルドライン北九州 ボランティアスタッフ養成講座	講師
2.	2024年12月9日	キャリア教育研究会「夢授業」	講師(職業人)
3.			

■ 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024年4月～2025年3月	助産別科アドバイザー(4名)	
2.	2024年4月～2025年3月	オープンキャンパス企画・運営	補佐
3.	2024年11月～2025年2月	助産師国家試験対策	補佐
4.	2024年4月～2025年3月	実習コーディネーター	補佐
5.	2021年～現在	健康管理カルテ作成・配布	